

豊かな水が 育む植物たち

深耶馬溪は、耶馬日田英彦山国定公園ならびに国指定名勝「耶馬溪」の中心的な地域で、山国川の支流、山移川が耶馬溪火砕流堆積物の台地を深く侵食し、形成された岩峰と溪谷の発達する景勝地です。溪谷一帯は古くから貴重な植物の宝庫として注目され、これまでに126科736種の維管束植物（シダ植物と種子植物）が確認されています。



溪谷の岩場に生えるツクシシャクナゲ



溪流の水際に群生するナルコスゲ



耶馬日田英彦山国定公園
指定種のコバノフユイチゴ

● 溪流沿いのシダ植物

溪谷周辺は湿潤な環境が保たれるため、シダ植物の絶好の生育地になっています。深耶馬溪は県下有数のシダ植物の豊産地で、これまでに140種の生育が確認されています。このなかには、九州で唯一生育が確認されているクラガリシダや九州固有種のカネコシダなど分布上貴重なものも少なくありません。



水際の岩に群生するサイゴクホングウシダ



溪谷沿いの木の幹や枝に
着生するシダ植物



濡った岩に着生するサジラン



溪谷沿いの林内のシダ植物群落

●貴重な植物の宝庫

深耶馬溪には、日本自然保護協会等が発行した「我が国における保護上重要な植物種の現状」(1989年)(通称、レッドデータブック)で、絶滅の危険のある植物(危急種)として挙げられたナツエビネやゲンカイツツジ、オニコナスビなどの貴重な植物が生育しています。これらの植物を大切に保護していきたいものです。



深耶馬溪の岩峰に春を告げる
ゲンカイツツジ



奇妙な形の花を咲かすタイリンアオイ



溪谷沿いの林内に生える清楚な花
ナツエビネ

●秋の紅葉

深耶馬溪が一番にぎやかになる季節は秋。たくさんの観光客が紅葉狩りに訪れます。紅葉の主役はイロハモミジ。一目八景周辺の溪流沿いには多くの大木が生えています。この他にイタヤカエデや、ウリカエデ、ヤマハゼなどが紅葉し、溪流沿いは赤や黄色の色鮮やかなトンネルに変わります。



イロハモミジ



ウリカエデ

秋の錦雲